報道機関各位

令和８年11月２日
放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会

令和８年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰
受賞者発表及び表彰式のお知らせ

１．　令和８年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰受賞者

「放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰」は、(公財)原子力安全技術センター、(公社) 日本アイソトープ協会、(公財)日本分析センター及び放射線障害防止中央協議会が主催し、原子力規制委員会の後援を得て、放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会を設置し実施するもので、令和８年度は別紙のとおり放射性同位元素等の安全管理又は環境放射能対策の向上のために尽力して優れた成果を挙げた１２名の受賞が決定いたしました。

- 放射線安全管理功労者　（９名）
- 環境放射能対策功労者　（３名）

受賞者には、原子力規制委員会から原子力規制委員会委員長賞が贈られます。

２．　表彰式

日時：令和８年11月16日（月）　　10：30～11：10
場所：原子力規制委員会　13階BCD会議室
（東京都港区六本木１丁目９－９　六本木ファーストビル）

注意事項

・表彰式の取材をご希望の方は、11 月 11 日（水）17:00 までに氏名、所属、連絡先（電話番号・メールアドレス)、持ち込み機材（ビデオカメラ、スチールカメラ／ペン／その他）を記載の上、以下の申込み先まで電子メールにて、ご登録願います。件名は、「令和８年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰　取材依頼」として下さい。
また、当日会場で受賞者にインタビューを希望する場合は、○○さんにインタビュー希望と必ず明示してください。
希望者多数の場合は抽選とします。
申込・問合せ先：
放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会事務局
（公財）原子力安全技術センター　企画総務部　松戸、阿南
Email:kikaku@nustec.or.jp　tel:03-3814-7482

・取材は、主催者プレス担当者の指示する場所（プレスエリア）で行ってください。
・当日は、免許証等の身分を証明できるものをご提示ください。事前登録のない方は取材できませんのでご注意ください。また、自社腕章を着用していただくようお願いいたします。
・会場内への入室は、表彰式開始30分前からご案内します。

・会場内では私語を控え、表彰式の進行を妨げないようご注意ください。
・その他主催者プレス担当者の指示に従うようお願いします。指示に従っていただけない場合には、退室いただくことがございます。
・ご登録いただいた個人情報は、表彰式の適切な運営のために利用し、その他の目的には利用しません。

○取材可能時間【10 時 30 分～11 時 25 分】
当日の進行（予定）
（１）表彰式 10：30～11：10
①開 式
②放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰
主催者代表 挨拶 （原子力安全技術センター 石田会長）
③祝辞 （原子力規制委員会 山中委員長）
④原子力規制委員会委員長賞 表彰状 授与（原子力規制委員会 山中委員長）
表彰盾 授与（放射線障害防止中央協議会 藤井会長）
⑤受賞者 代表 挨拶 （放射線安全管理功労者）
⑥受賞者 代表 挨拶 （環境放射能対策功労者）
⑦閉 式

（２）インタビュー可能時間 11：10～11：25

以上

各位

令和８年11月２日
放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会

令和８年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰
受賞者発表及び表彰式について

「放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰」は、(公財)原子力安全技術センター、(公社) 日本アイソトープ協会、(公財)日本分析センター及び放射線障害防止中央協議会が主催し、原子力規制委員会の後援を得て、放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会を設置し、実施するものです。

本表彰は、放射性同位元素等の安全管理又は環境放射能対策の向上のために尽力して優れた成果を挙げた個人を表彰することにより、関係者の更なる意欲の向上と安全確保に対する国民の理解の増進に資することを目的としています。受賞者には、原子力規制委員会から原子力規制委員会委員長賞が贈られます。

本年度は、次の各区分について、別紙のとおり１２名の受賞が決定いたしました。

- 放射線安全管理功労者　（９名）
- 環境放射能対策功労者　（３名）

なお、表彰式を以下のとおり挙行いたします。本表彰式は、関係者のみで執り行いますので、関係者以外は傍聴できません。

日時：令和８年11月16日（月）　　10：30～11：10
場所：原子力規制委員会　13階会議室
（東京都港区六本木１丁目９－９　六本木ファーストビル）

問い合わせ先：(公財) 原子力安全技術センター
企画総務部　松戸、阿南
電話番号　03-3814-7482

別紙

令和８年度　放射線安全管理功労・環境放射能対策功労者

放射線安全管理功労者（五十音順）

氏名	所属	業績
いがらし　たかゆき 五十嵐　隆元	元国際医療福祉大学成田病院	複数の医療機関において放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。 また、放射線安全管理に関する多数の論文を執筆するとともに、日本放射線技術学会をはじめとする関連学協会にて各種委員を務め、被ばく評価や健康への影響などに関する調査研究活動において優れた成果を挙げた。
いちぢ　たけし 伊知地　猛	一般財団法人電力中央研究所	電力中央研究所の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。 また、関連学協会において各種委員を歴任し、放射線安全管理に関する制度の整備や技術の発展に寄与してきた。 さらに、多数の学会での発表や論文を多く手掛け、放射線安全管理に関する知識の普及や安全文化の醸成に貢献している。
いながき　まさよ 稲垣　昌代	学校法人近畿大学	近畿大学原子力研究所の放射線安全管理業務を多年に亘り主導し、安全確保に尽力するとともに、教育・研究基盤の維持発展に貢献した。 また、放射性物質測定に関する研究成果の発表や外部機関での講師活動を通じて、安全管理技術の向上と人材育成に貢献し、関連学協会にて表彰されるなど、その功績は高く評価される。
さとう　かずのり 佐藤　和則	国立大学法人東北大学	東北大学の複数の放射線施設において安全管理業務に多年に亘り従事し、放射線安全管理体制の維持・向上に尽力した。 また、放射線管理に係る研究に参画し、得られた成果を発展させて合理的な放射線管理システムを構築するとともに、論文や学会での発表を通じてその知見の普及と後進の育成に貢献している。

氏名	所属	業績
しばた　みちひろ 柴田　理尋	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学	名古屋大学の放射線施設全体の安全管理業務を統括するとともに、放射線安全管理教育の中心的な役割を担ってきた。 また、関連学協会の要職を歴任し、制度や技術の発展に寄与するなど、安全管理業界をけん引してきた。 さらに、学術論文や専門書を多数執筆し、知識の普及と安全文化の醸成に貢献している。
なかしま　さとる 中島　覚	国立大学法人広島大学	広島大学における放射線安全確保に関する中心的な役割を果たしてきた。 また、日本放射線安全管理学会の理事、会長を務めるとともに、多数の関連学協会の要職を担い、放射線安全管理に関する制度整備や技術の発展に寄与してきた。 さらに、学術論文や専門書を多数執筆するなど、安全管理に係る功績は顕著である。
なかじま　ゆみこ 中島　裕美子	国立大学法人九州大学	琉球大学および九州大学の安全管理業務に多年に亘り従事し、放射線安全管理体制の維持・向上に尽力した。 また、関連学協会の要職を歴任し、活動を通じて放射線安全管理に関する知見の普及・発展に尽力するとともに、大学放射線施設における安全文化の醸成と継承にも顕著な功績を挙げた。
ふたつかわ　しょうじ 二ツ川　章二	アルファ・タウ・メディカル株式会社	日本アイソトープ協会の廃棄業に係る施設において、放射性廃棄物の安全確保に多年に亘り貢献した。 また技術基準の整備や法令改正、ガイドライン策定に貢献し、RI 等規制法の成立にも寄与する一方で、関連学会での活動を通じた安全文化の醸成や各種説明会の講師等として国民の不安解消に尽力した。
ほった　まさお 堀田　雅雄	株式会社シーエックスアール	株式会社シーエックスアールの放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、放射線の適正な管理・運営に尽力している。 また、日本非破壊検査工業会において、放射性同位元素等安全管理員会の委員長を務め、安全管理指針の策定など、非破壊検査業界における放射線安全管理の発展に大きく寄与した。

（計 9 名）

環境放射能対策功労者（五十音順）

氏名	所属	業績
さいとう　たかし 齋藤　隆	福島県農業総合センター	東京電力福島第一原子力発電所事故後の農地土壌調査により、水田土壌における放射性セシウムの分布状況を把握し、カリウム施肥による玄米中放射性セシウム吸収抑制技術を確立したことで、福島県における安全・安心な米生産体制の構築に大きな成果を挙げた。また、除染後農地における放射性セシウム濃度及び土壌肥沃度のばらつきの可視化と改善技術の開発に取り組み、地域農業の復興と再生に大きく貢献した。
とこなみ　しんじ 床次　眞司	国立大学法人弘前大学	環境放射能に関する調査・研究に長年従事し、ラドン計測技術、環境放射線モニタリング及び被ばく線量評価手法の発展に成果を挙げた。東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境放射能調査、被ばく線量評価等を通じて復興支援に尽力し、青森県の原子力施設における環境放射線等監視への多年に亘る貢献もある。また、ISO 及び IEC におけるラドン測定等の国際規格策定をプロジェクトリーダーとして主導し、国際的な放射線防護及び環境放射能対策の発展に寄与した功績は大きい。
やまもと　まさよし 山本　政儀	国立大学法人金沢大学	石川県の原子力施設における環境放射線モニタリング及び調査・研究に多年に亘り尽力し、環境放射能対策に大きく貢献した。また、環境中の超ウラン元素、極微量放射能測定及び環境動態研究等の環境放射能に関する研究において多大な成果を挙げた。環境試料中のプルトニウム分析における日本を代表する専門家であり、東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境放射能モニタリングにおいてもプルトニウム等の超ウラン元素の影響評価に大きく貢献した。

（計 3 名）